

学校点描

宮内方面に逃げたカモシカは、自転車で捜索しましたが結局発見できませんでした。

《S中学校》

NO.3 H30. 5. 1

担当：教頭

運動会は最高の天気の中で開催できました。当初、保護者の運動会役員への希望が少なく、メールで再度呼びかけましたところ、「役員的人数が少なくて困っているなら」と多くの保護者の方々が申し込みをしてくださりました。お陰で、当日は、保護者の皆さんの支援を得て大成功裡に運動会を終えることができました。本当にありがとうございました。

私は審判長として本部のテントにいたることが多かったのですが、傍らでは、4人の中学生が一生懸命競技を盛り上げるアナウンスをしてくれています。他の学校では、保護者の代表や教員が行う役割も、S中学校では生徒に任せています。すでに用意されたシナリオを読むのとは違い、競技の実況をするのは大人でも大変です。時に、ユーモアを交えながら、大会を盛り上げてくれました。

あまりにも上手なので、アナウンスをしていたS・Tさんに声をかけてしまいます。「S・Tさんは、将来アナウンサーにでもなるのが夢なの？」と。S・Tさんは、ちょっと照れながら、「それは考えていません」と答えてくれました。

千年燈明

2年生の主任であるA先生がALTのマッシューさんに、山形名物の“玉こんにゃく”について教えていました。なかなかうまい具合の英訳がでてこないようで四苦八苦しています。それでもマッシューさんにはなんとか通じたらしく、四角いこんにゃくしか食べたことがないことを話していました。それを聞いていた私は、山寺に行って立石寺に上がる石段の茶屋に売っていることを説明します。マッシューさんは、今度友人と石段を登って立石寺までトライすることを嬉しそうに語ってくれました。

山寺の立石寺には、千年間、灯しつづけている燈明があるということを知り、いつだったか運転中に車のラジオで知りました。わたしも山寺には、数度行って、あの長い階段を上りましたが、玉こんにゃくは知っていても、千年燈明のことは知りませんでした。千年間絶えず灯をともしつづけているほど、大変大切に扱われている“ともし火”です。その火は、その昔、比叡山の延暦寺から分火されたものなんだそうです。その昔といっても、貞観2年（860年）の創建の時に分火されたというのですから、はんぱじゃありません。ある時、織田信長が、比叡山の焼き討ちをした際、延暦寺の火が消えてしまい、この山寺の灯をもっていったんだそうです。ま、そういうめったにないことのために、なにもそんなにまでしなくてもという話なんですけど。とにかく、ずっと千年間、灯しつづけている火なんです。

運動会の応援合戦でのダンスやエール、校歌や応援歌は、どの組も素晴らしいものがありました。入学式での校歌斉唱とは大きく違い、ひとり一人が腹の底から声を出している姿を見るにつ

け、ここまで自分の組のために一生懸命なれるものなんだなあと中学生の力に感動します。

各組の応援合戦が始まる前に、各組の教員の組頭でもある3年A組からC組までの担任の先生方が見どころやここまでするのに苦労してきたことをマイクを使って観衆の方に説明する場面もよかったですね。当日まで私もその内容を知りませんでした。

「ここまで応援合戦の内容をまとめるには大変でしたね。いろいろな苦労もありました。さあ、いよいよ本番です。思いっきり楽しんでください！」S先生は、観衆に説明するというよりも、最後に発表する白組の生徒たちへの背中を押すメッセージでした。

人の心に火を灯すという作業は、大変なことです。

各組の応援合戦では、確実に生徒ひとり一人の心に火が点いていました。あの心の火はどのようにして点火したのでしょうか。これまでの練習の苦労が・・・、観衆を感動させたいという思いが・・・、上級生の意気込みから伝わった思いが・・・。

いずれにしろ運動会で何かしら満足を得たいという火種があったからですね。

教師からのメッセージも、生徒たちの心の火種に火を灯したのは確実なようです。

人の心には、たくさんのともし火の火種があります。その火種を絶やさないようにするのは、やはり周囲の大人の温かいまなざしや言葉がけなのでしょう。千年燈明の火には及びませんが、

せめてその子がしっかり自立していけるまでは、どの子にも必ずある心の中の火種を大切にしたいものです。そうすれば、何をきっかけに火が灯るかわかりません。

「オリンピックをテレビで見ながら、なんとなくその実況に興味を持っていたんです。」

S・Tさんがそっと教えてくれました。

心の火だねに火を灯すと、生徒は自分の力でどんどん伸びていくことを教えてくれた運動会でもあったんです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。